

第3章 授業公開

1. 企画趣旨

本学では、授業の質的向上を目指す諸活動の一環として、平成24年度より授業公開を行っている。原則全ての授業を対象とし、教員のみならず職員も見学可能としている。教員および職員が相互に研鑽を図るために、全学規模のSD・FD活動として実施したのは平成24年度以降のことであり、令和元年度で8年目となる。

今年度は昨年度に引き続き、公開期間2週間とし、そのうち見学期間を1週間とした。また、昨年度同様、見学記録の提出方法についても、紙媒体ではなく、Web上で提出フォームにて提出することとした。実施期間・提出方法をこのように設定することによって、より授業公開が身近に感じられ、昨年同様の参加が見込まれることを期待してのことである。また今年度は、公開期間中の学科の組み合わせを一部、入れ替え、昨年度とは異なる学科の授業を見学することができるようにした。

例年と同様、教員の多くは所属学科の授業を見学する傾向にあるが、今年度は、演習科目（実習・実験科目も含め）の見学も多くみられた。

見学者より提出された感想は、いずれも示唆に富むものであるが、代表的なものを以下、紹介する。

2. 実施概要

【期 間】

①見学期間

令和元年 11 月 11 日（月）～ 22 日（金）

②公開期間

令和元年 11 月 11 日（月）～15 日（金） 幼教・心理・健康・文芸・メディア学科

令和元年 11 月 18 日（月）～22 日（金） 児教・福祉・食栄・生情学科

※昨年度と同様、授業公開の期間を各学科 1 週間、見学期間を 2 週間とした。

※公開時期を 1 週間として公開側の負担を軽減しつつ、見学側の選択肢はこれまで通り確保した（同学科でも他学科でも見学可能）

※共通・資格科目については、時間割表に記載のある時限での公開となる。

【見学対象科目】原則すべての授業

【見学者】見学者件数のべ 67 名

教員52名、職員15名

*このうち、複数の授業を見学した人数は次のとおりである。

(※2 授業見学者 4 名、3 授業見学者 2 名、)

【感 想】

➤ 「英語 I」

【内容】「日本の治安」に関するトピックを英語で学ぶ授業。

【感想】学生たちの活動をより活発にするために、周囲の学生たちと相談や意見交換をしながら授業を進めているところが、大変参考になりました。

また、取り上げるトピックに関して先生の体験を交えながら解説することで、学生たちの語彙力、表現力の向上と、トピックに対する関心を高める工夫をされている点も、大変勉強になりました。ありがとうございました。

➤ 「カウンセリング理論」

【内容】行動カウンセリングに関する講義

【感想】導入で、前回の内容やFBがあり、つながりを感じられる講義で良かった。また、1年生の必修ということで初学者が多い中、噛み砕いた講義内容で大変わかりやすかったと感じた。・座席指定で静かな受講

環境なのが良かった。ご講義を最後まで拝見していないのでわからないが、手元でPPTを操作しながら教室内を巡回をしてみると、学生の理解度に合わせてペース調整などをしていただけるのではないかと感じた。

➤ 「マーケティングリサーチ」

【内容】日経POSセクション2019を参考に、商品についてのWEBアンケートの作成。

【感想】最初に口頭で出席確認をしていたのが新鮮だったが、少人数ならではのと感じた。

実際にgoogleフォームを使用して、商品にまつわるWEBアンケートを作成するため、それまではスマホを触ったりしていた学生も、作業開始時にはきちんと取り組んでいる様子だった。補助モニターを効果的に使用していたため、学生たちも躓くことが少ない様子で作業を進めており、また、適宜教員が声をかけ遅れている学生がいないか確認していた。

自分も仕事でgoogleフォームをよく使用しているが、学生たちも社会人となったとき、実際にマーケティングや調査でアンケートを作成する機会があると思うので、この授業で学んだことが活かせると思う。

➤ 「オブジェクト指向プログラミング」

【内容】前回課題の解説、参照型フィールドを持つクラスの注意点・理由・対策に関するペアワーク、課題演習

【感想】中間モニタを利用して、画面上でメモを書き込みながらわかりやすく解説していた。ペアワークでは、教えあいを通して曖昧な点の洗い出しや理解の深化が効果的に行われ、発展的な議論をしているペアも散見された

➤ こころとからだのしくみⅡ

【内容】睡眠に関連したこころとからだのしくみについて。睡眠に関する小テストの解説を踏まえた講義。日経POSセクション2019を参考に、商品についてのWEBアンケートの作成。

【感想】先週行われた小テストの内容に基づき、学生に質問する形で授業が展開された。学生にテキストを指示し、拡大投影するなど細やかな配慮がなされていた。難しいテーマながら、学生は自由に発言する機会に恵まれ、理解度も高かった。授業の途中では、学生の達成度を確認したり、ポジティブな言葉を投げかけたりしており、学生の意欲が持続する工夫がされていた。学生の意欲を引き出し、興味をひきつけることが内容の理解につながることを実践されており、学生への配慮や言葉かけなど取り入れていきたいと考えた。

【感想】個人ワークと解説を組み合わせ、少人数制の特徴を活かし学生全員が意見を述べるなど、学生が主体的に取り組んでいる様子が印象的であった。学生に配布された資料も講義内容を分かりやすく整理するために活用しやすい構成になっており、関連する介護福祉士養成課程の担当科目に参考になる授業であった。

➤ 保育・教育実践演習

【内容】保育における生活と造形をテーマにしたグループワーク

【感想】流し素麺の実践を通して、保育における環境構成の実際及び生活と造形の関わりについて学生同士が興味・関心を高く持ちながら自律的、協働的に学ぶことができていた。活動の記録にスマートフォンの撮影機能を用いたり、板書としてのメモや動画サイトの映像・音楽を大型タッチディスプレイによって提示したりするなどICTの活用も図られており、体験型の学修として非常に効果的な内容、手立てが取られていると見た。本授業は経験を通じた学びとして学生の記憶にとどまり、卒業後の保育、教育実践にも生かされることが期待できるであろう。

➤ 幼児運動論

【内容】12月7日実施予定の伝承遊びプロジェクトの打ち合わせ

【感想】学生たちは地域の町内会の高齢者の方々と、当日の実施プログラムについて、実施方法の確認やそれぞれの立場からより効率的、効果的な方法はどのようなものが考えられるかを、実際に身体を動かした

がらお互いに確認し合っていた。幼児教育の現場には、本来、世代間で伝承されてきた遊びを伝承していく場としての役割が求められているが、その意味においても地域の高齢者と学生との世代間で伝承遊びを共有できたことは大変有益であったと思う。

➤ 「理科」

【内容】 てこの規則性（学習指導要領との関連、てこの使い方、実際の授業展開、てこを利用した道具）

- ・グループごとに予測を立て、まずは実用でてこを使い、体験をする。
- ・机上の実験用でてこを、使い方を交えながら、予測の実証を行う。
- ・小6の理科の分野なので、学習指導要領に書かれている「見方」「考え方」の考え方と声かけの方法、問題解決への方向へ導く様々なアイデアを提示の仕方をご自身の体験を通じて学生に伝えられていた。
- ・目に見える（数えることができる）ものから数値で表すことへと導く、理科と算数との関連との説明。

【感想】 実験を行うため、動きのある教科ではありますが、それ以上に、教室全体を使い、学生の視線、動きが1つにとどまらないことで、授業への集中・注目をさせること（飽きさせないこと）が印象的でした。話し合いから座談に発展するときもありますが、注意の方法が皆に対する注意ではなく、「□□さん、聞いている？」「△△さん、見える？」と言われることで、ぴたっと静かになるのは、とても効果的な方法だと思います。先生が、受講生の名前と顔を合致させていることの証明で、受講生も気を引き締めて授業を受ける姿勢ができていたように感じました。

授業資料もちょうどよい量で、ワークシートへの先生のコメントも拝見させていただき、返却された後も「どうしてだろう？」とさらに学習を深めたいような動機につながるように思いました。かわいらしいハンコも、おそらく毎回いろいろなものを使用されていると思いますので、「次のハンコはどんなものなんだろう？」と楽しみになるものと思いました。

【感想】 新学習指導要領のとの関連を図りながら、「てこの規則性」に着目した授業づくりであった。学生自身が体験的に学ぶことを通して深い教材研究ができていた。一人一人の学生が意欲的に学んでいるのが印象的であった。

➤ 社会

【内容】 グループワークによる社会科のテスト問題の作成と実施、解答と解説。

【感想】 教科内容に関する基礎的な知識・理解に課題が見られる中、テスト問題の作成という課題に取り組むことで、学修への関心・意欲を高めるとともに、内容理解が促されていた。問題作成において記述式等の工夫を取り入れる学生も見られ、参考になった。

➤ 食文化論

【内容】 コメは肥満や糖尿病の原因になるか

【感想】 所属学科とまったく違う授業を受けたい、と思い、山本先生の講義を受講しました。複数のデータを参照しながら、従来の説の問題点を考える点に、食物栄養学科の学生指導のあり方を実感しました。学生のうちから「研究」という視点で物事を捉えるということ、人々の健康を栄養面から支えるということに誇りを持つこと……。山本先生の講義からは、こうした意識を育てるための工夫や配慮をいくつも感じました。授業内容に関して、授業の最後にふり返りチェックをするのも参考になりました。ふり返りチェックを意識して授業を受けることで、授業への集中も変わってくると思います。そして、単に学説を紹介するだけでなく、先生のご経験に基づくお話も関心を持って聞くことができました。また、お話をお聞きしたいと思う授業でした。

➤ 公衆衛生学概論

【内容】 栄養疫学と食事摂取基準に関する学生発表および解説

【感想】 学生が各自に与えられたテーマについて、教科書を中心としてスライドにまとめ、それに対し、徳野先生がコメントやフォローを含めて解説されるという形式の授業でした。今回のテーマや以前に学んだ内容と、課題として各自が検索し持参した学術論文の内容とを関連付けさせるなど、より応用的にテーマを理解することができるよう工夫されていました。アクティブラーニング室を使用し、4人1組となって着席し、先生が投げかけられた問いについて話し合ったり、互いの論文の内容を確認させるなど、グループワークも適宜取り入れられていました。学生にとって、緊張感がありながらも変化のある授業形式をとられており、大変参考になりました。ありがとうございました。

➤ 日常生活支援技術Ⅱ

【内容】 施設における介護職員の会議技術と、大学での学びを振り返る

【感想】 現在実習をしている1年生の学生たちが、大学での学んだ生活支援技術と、介護施設での生活支援技術の相違点について理解し、発表することができていた。学生たちはそれぞれの実習場所で、いろいろな気づきをもっていることも分かった。今後の実習に向けて、学生たち自身が課題について気づいていける取り組みだと感じた。

3. まとめ

実施期間中に各教員は1つ以上の授業を見学し、見学記録を提出することにした。本年度の見学者数はのべ67名であった。昨年度ののべ見学者が66名であったことと比較すると同水準で推移したと言える。授業公開の実施方法としては、学科ごとに公開期間をずらすことによって、見学しやすくなるよう工夫した。

提出された感想を概観するに、他の教員の授業法を見学することは、多くの刺激になっているように見受けられる。それは見学する側にとっての刺激というだけでなく、見学される側にとっても同様である。普段は学生との関係のなかでしか授業について考えることができないのが、現実的な教員の置かれているポジションであるが、授業見学を導入することで、大人の目線、プロの目線で授業を見直す機会になり、授業の透明性を向上させ、力量を向上させていると言える。

授業公開は「教員相互で授業を公開することにより、授業の質的向上を図るための一手段」と定義される。そのような目的は今回果たされているように思われるが、課題もある。今後はそこで共有された授業方法について、見学を行うことができなかった教員にもシェアできるような仕組みを作っていくことが目指される。また、そのようなメリットが周知されることによって、授業見学を行う教職員をより増加させていくことが目指される。